

新国立劇場 2010/2011 シーズン<演劇>

日韓合同公演

焼肉ドラゴン

日本語
字幕付

作・演出◎鄭 義信

2011年2月7日(月)～2月20日(日)

新国立劇場 小劇場

「あの家族にまた会える！」 待ち望まれた再演

2008年に日本と韓国のコラボレーション作品として、東京とソウルで上演された『焼肉ドラゴン』が帰ってきます！ 初日が明くとあつという間に評判が口コミで広がったものの、日本公演が10回のみで見逃した方も多く、強く再演が望まれていた作品です。

万博に沸く1970年前後の関西の地方都市に暮らす在日コリアン一家と、彼らが営む焼肉屋に集う人々を生き生きと描き、連日、客席は笑いと涙に包まれました。小さな焼肉屋の大きな物語に、日韓の現在・過去・未来を託した物語です。

今回も日韓両国の俳優・落語家・ミュージシャンのビビン(韓国語で“混ぜる”の意味)キャストが、息の合った舞台を繰り広げます。読売演劇大賞の優秀男優賞・優秀女優賞を、韓国人として初めて受賞した俳優の演技にも注目です。

「焼肉ドラゴン」で皆様をお待ちしております。

【チケット好評発売中】

写真・資料のご請求、取材のお問い合わせ

◎新国立劇場 制作部演劇 広報担当 田中雅司

◎新国立劇場 制作部演劇 制作担当 伊澤雅子

TEL: 03-5352-5738



新国立劇場

<http://www.ntj.ac.jp>

◎作品について

新国立劇場は、2002年に初めての日韓合同公演『その河をこえて、五月』を、東京とソウルで上演。05年には東京・全国・ソウルで再演され、単なる日韓文化交流に終わらない優れた成果を上げることができました。

そして2008年4月、前回の経験を生かし、開場20周年を迎える芸術の殿堂(ソウル・アート・センター)との再コラボレーション企画として、『焼肉ドラゴン』は制作されました。東京・ソウルでは、毎回スタンディング・オベーションとなる熱狂的な支持を受け、この年の演劇賞を多数受賞。その話題作が、2011年満を持して再登場を果たします。

日本の焼肉屋を舞台に、ある在日コリアンの家族を通して、日韓の現在、過去、未来を、音楽入り芝居でおかしく、そして哀しく切なく描く物語。在日コリアンである鄭義信にしか描けない世界、まさしく日韓交流にふさわしい作品として、日本そして韓国から大好評を得た作品の再演に是非ご期待下さい。

●「焼肉ドラゴン」の受賞記録

<日本国内>

- 第43回紀伊国屋演劇賞 個人賞(鄭義信)
- 第8回朝日舞台芸術賞 グランプリ(「焼肉ドラゴン」)
- 第12回鶴屋南北戯曲賞(鄭義信「焼肉ドラゴン」)
- 第16回読売演劇大賞 大賞・最優秀作品賞(「焼肉ドラゴン」)
- 同 優秀男優賞(申哲振「焼肉ドラゴン」)
- 同 優秀女優賞(高秀喜「焼肉ドラゴン」)
- 同 優秀演出家賞(梁正雄・鄭義信「焼肉ドラゴン」)
- 第59回芸術選奨 文部科学大臣賞(鄭義信「焼肉ドラゴン」)

<韓国国内>

- 韓国演劇評論家協会の選ぶ2008年今年の演劇ベスト3
- 韓国演劇協会が選ぶ2008年の演劇ベスト7

●「焼肉ドラゴン」(再演)の上演日程

<東京公演>

2011年2月7日(月)～20日(日) 新国立劇場

<韓国公演>

2011年3月9日(水)～20日(日) 芸術の殿堂(ソウル・アート・センター)

<全国公演>

2011年4月9日(土)・10日(日) 兵庫県立芸術文化センター
2011年4月16日(土)・17日(日) 北九州芸術劇場

◎あらすじ

万国博覧会が催された1970(昭和45)年、関西の地方都市。高度経済成長に浮かれる時代の片隅で、焼肉屋「焼肉ドラゴン」の赤提灯が今夜も灯る。

店主・金龍吉は、太平洋戦争で左腕を失ったが、それを苦にするふうでもなく、流れていく水のように、いつも自分の人生を淡々と受けとめてきた。

家族は、先妻との間にもうけた二人の娘と、後妻・英順とその連れ子、そして、英順との間にやっと授かった一人息子・・・ちよつとちぐはぐな家族と、滑稽な客たちで、今夜も「焼肉ドラゴン」は賑々しい。ささいなことで泣いたり、いがみあったり、笑いあったり・・・。

そんななか、「焼肉ドラゴン」にも、しだいに時代の波が押し寄せてきて・・・。

これは時代に翻弄されながらも、必死で生きる普遍的な家族の物語です。



(3点とも 2008年公演より ©谷古宇正彦)

◎マンスリー・プロジェクトについて

できるだけ多くの方に劇場に足を運んでもらいたいと、“開かれた劇場”を目指す芸術監督の宮田慶子。その一環として、2010/2011 シーズンより「マンスリー・プロジェクト」が始動しました。リーディングあり、講座あり、トークショーありの、多彩な無料プログラムを用意し、その月々に関連した演劇公演に多角的にアプローチします。

2月は、『焼肉ドラゴン』作・演出の鄭義信と、映画監督の李闘士男を招いて、トークセッション<『焼肉ドラゴン』のハツ(心臓)>を開催。演劇・映画・テレビとクロスオーバーに活躍する関西出身の二人から、宮田慶子が根掘り葉掘り興味深いお話を聞き出します。(11日(金・祝)17:30、小劇場にて)

◎作・演出からのメッセージ

鄭 義信

『焼肉ドラゴン』の初演はお蔭様で日韓ともに暖かい拍手でもって、幕をおろすことができました。また思いもよらぬ多くの賞をいただいて、それを『焼肉ドラゴン』に関わった日韓のスタッフ、キャスト、関係者とともに喜びを分かち合えたことは、幸福この上ないことでした。

これほどの反響が湧きあがったことに僕自身も驚きましたが、その再演ともなりますと、同じようにまた受け入れてくれるかどうか、前作以上の日韓の熱いタグを見せることができるかどうか…等々、不安は大いに募ります。

けれど、同時に、『焼肉ドラゴン』のあの家族たち、あの街に住む人たちに、ふたたび出会えることができる喜びにあふれております。

あの登場人物たちが舞台の上で再び輝き始める瞬間を、僕は観客の皆様とともに見つめていきたいと思っています。

◎プロフィール

作・演出◎ 鄭 義信 (ちよん・ういしん)



93年に『ザ・寺山』で第38回岸田國土戯曲賞を受賞。その一方、映画に進出して、同年『月はどっちに出ている』の脚本で、毎日映画コンクール脚本賞、キネマ旬報脚本賞などを受賞。98年には、『愛を乞うひと』でキネマ旬報脚本賞、日本アカデミー賞最優秀脚本賞、第一回菊島隆三賞、アジア太平洋映画祭最優秀脚本賞など数々の賞を受賞した。さらに平成13年度芸術祭賞大賞受賞を受賞した『僕はあした十八になる』(01/NHK)などテレビ・ラジオのシナリオでも活躍する一方、エッセイ集『アンドレアスの帽子』なども出版。現在も、文学座、こんにやく座ほかに戯曲を提供する傍ら、自身も作・演出を努めるユニット<海のサーカス>に参加している。新国立劇場では『たとえば野に咲く花のように—アンドロメケ—』『焼肉ドラゴン』の脚本を手がける。初演の『焼肉ドラゴン』で、第16回読売演劇大賞 優秀演出家賞、第12回鶴屋南北戯曲賞、第43回紀伊國屋演劇賞、第59回 芸術選奨文部科学大臣賞を受賞した。

清本(李)哲男◇ 千葉哲也 (ちば・てつや)



演劇企画集団「THE・ガジラ」に旗揚げから参加。その後、さまざまな舞台で活躍。最近の舞台に、THE・ガジラ『さよなら溪谷』、新感線プロデュース『IZO』『蛮幽鬼』、TPT『スラブ・ボーイズ』『ここからの距離～The Distance from Here』『広い世界のほとりに』(演出・出演)、シスカンパニー『人形の家』(出演)、『AT HOME AT THE ZOO』『K II』(演出)、流山児事務所『櫻の園』(演出)、CAT『BLUE/ORANGE』(演出・出演)など。98年、第5回読売演劇大賞優秀男優賞受賞。04年度第39回紀伊国屋演劇賞個人賞受賞。06年度第14回、09年度第16回読売演劇大賞優秀演出家賞受賞。新国立劇場では『リア王』『虹を渡る女』『カストリ・エレジー』『新・雨月物語』『キーン 或いは狂気と天才』『THE OTHER SIDE／線の向こう側』『胎内』『カエル』に出演。

長谷川 豊◇ 笑福亭銀瓶 (しょうふくてい・ぎんぺい)



88年、笑福亭鶴瓶に入門。大阪を中心にテレビ・ラジオ・落語と精力的に活動を行う。04年の秋に映画『血と骨』(崔洋一監督・鄭義信脚本)をきっかけに、自らの中に韓国の血が流れていることを再認識し、独学で韓国語の勉強を始める。習い始めて3ヶ月で韓国語落語にチャレンジし、05年2月に大阪朝鮮高級学校で、初めて韓国語落語を行う。05年から毎年、韓国各地で公演を行い、10年には文化庁文化交流使として任命を受け、韓国に1ヶ月滞在し各地で20公演を実施。韓国語落語では「動物園」「時うどん」「犬の目」「いらち俵」を持ちネタとし、現在も様々なネタに取り組んでいる。また、国内では08年に有識者の投票で決まる「繁昌亭大賞」において、「繁昌亭大賞・奨励賞」を受賞し、翌09年には「第4回繁昌亭大賞」受賞。

金 龍吉◇ 申 哲振 (シン・チョルジン)



76年劇団文芸劇場の『西国のでこ坊』でデビュー。演劇『アベルだけの裁判』『夜の酒幕』『アンティゴネ』など約60本の作品に出演するベテラン俳優。映画作品として『私の頭の中の消しゴム』『チ・ジニ×ムン・ソリ 女教授』『里長や郡守』『影』『同じ年同士からのレッスン』など数多くに出演。2007年ヒソ演劇賞受賞。09年読売演劇大賞優秀男優賞受賞。

高 英順◇ 高 秀喜 (コ・スヒ)



98年、劇団コモッギル(路地)に入団、99年『青春礼讃』(パク・グニョン作・演出)で舞台デビュー。以来、所属する劇団公演以外にも活躍する。主な出演作に『六分の陸』『西側の波止場』『ケイドウの花』『キョンスギ、キョンスギのお父さん』などがある。00年『ほえる犬は噛まない』で映画デビュー、その後『ピンクの靴』『親切なクムジャさん』『ユア・マイ・サンシャイン』『四字成語』『ゲムル 漢江の怪物』など日本でも公開され話題となった作品に多数出演。06年東亜演劇賞受賞。09年読売演劇賞優秀女優賞受賞。

◎公演概要

【タイトル】 日韓合同公演「焼肉ドラゴン」

【スタッフ】 作・演出 鄭 義信
 翻訳 川原賢柱
 美術 島 次郎
 照明 勝柴次朗
 音楽 久米大作
 音響 福澤裕之
 衣装デザイン 出川淳子
 ヘアメイク 川端富生
 方言指導 大原穰子
 演出助手 趙 徳安
 舞台監督 北条 孝
 芸術監督 宮田慶子
 主催 新国立劇場
 協力 芸術の殿堂(ソウル・アート・センター)
 後援 駐日韓国大使館 韓国文化院

【キャスト】 千葉哲也、粟田 麗、占部房子、若松 力、笑福亭銀瓶
 佐藤 誓、水野あや、山田貴之、朴 勝哲
 申 哲振、朴 帥泳、金 文植、高 秀喜、朱 仁英

【会場】 新国立劇場 小劇場 (京王新線 新宿駅より1駅、初台駅中央口直結)

【公演日程】 2011年2月7日(月)～2月20日(日)

2011年	2/7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
	月	火	水	木	祝	土	日	月	火	水	木	金	土	日
13:00			●	●	●	◎	◎	休演	●	●	◎		●	◎
18:30	●	◎		●		●			●		●	●	●	●

◎＝託児室あり、13日(日)＝終演後シアタートークあり

【前売開始】 2010年12月12日(日)10:00～

【料金】 A席 5,250円 B席 3,150円

予約・問い合わせ： 新国立劇場ボックスオフィス TEL:03-5352-9999
 新国立劇場Webボックスオフィス <http://pia.jp/nntt>

チケット取り扱い： チケットぴあ、イープラス、チケットWeb松竹、
 ローソンチケット、CNプレイガイドほか

* **Z席 1,500円** 公演当日ボックスオフィス窓口のみで販売。1人1枚。電話予約不可。* **当日学生割引** 公演当日残席がある場合、Z席を除く全ての席種について50%割引にて販売。電話予約不可。* 新国立劇場では、高齢者割引(5%)、障害者割引(20%)、学生割引(5%)、ジュニア割引(中学生以下20%)など各種の割引サービスを用意しています。